

災害時には、危険な場所にいる人は避難することが原則です

知っておくべき5つのポイント

5 豪雨時の屋外の移動は**車も含め危険**です。やむを得ず**車中泊**をする場合は、浸水しないよう**周囲の状況などを十分確認**してください。

4 市が指定する**避難場所**、**避難所**が**変更・増設**されている**可能性**があります。災害時には**市ホームページ**などで**確認**してください。

3 **マスク・消毒液・体温計**が不足しています。避難先には**できるだけ持参**してください。

2 避難先は、小中学校・公民館**だけではありません**。**安全な親戚・知人宅に避難**することも考えてみましょう。

1 避難とは「**難**」を「**避**」けること。**安全な場所にいる人まで避難所に行く必要はありません**。

今のうちに、自宅が安全かどうかを確認しましょう

避難行動判定フローチャート



市のハザードマップはこちら

ハザードマップは、浸水や土砂災害が発生する恐れの高い区域に色を塗った地図です。色が塗られていなくても、低い土地や崖のそばなどにお住まいの人は、市からの避難情報を参考に必要に応じて避難してください。

大村市 ハザードマップ



あなたがとるべき避難行動は？
さあ、診断スタート！

ハザードマップで自分の家がどこにあるか確認し印をつけてみましょう。

家がある場所に色が塗られていますか？

はい

災害の危険があるので、原則として、自宅の外に避難が必要です。

ご自身または一緒に避難する人は避難に時間がかかりますか？

はい

安全な場所に住んでいて身を寄せられる親戚や知人はいますか？

いいえ

はい

安全な場所に住んでいて身を寄せられる親戚や知人はいますか？

いいえ

はい

警戒レベル4が出たら

市の指定した避難所に避難しましょう

安全な親戚や知人宅に避難しましょう（日頃から相談しておきましょう）

警戒レベル3が出たら

市の指定した避難所に避難しましょう

安全な親戚や知人宅に避難しましょう（日頃から相談しておきましょう）

浸水の危険があっても、次のいずれかに該当する場合は、**自宅に留まり安全確保することも可能**です。

- ①洪水により家屋が倒壊または崩落してしまう恐れの高い区域の外側にある。
- ②浸水する深さよりも高いところにある。
- ③浸水しても水がひくまで我慢できる、水・食糧の備えが十分ある。

また、土砂災害の危険があっても、十分頑丈なマンションなどの上層階に住んでいる場合は、**自宅に留まり安全確保することも可能**です。

いいえ

例外

いいえ